

将来のあるべき姿の到達度を測定する指標(案)とアプローチ(中河内二次医療圏)

●将来のあるべき姿の到達度を測定する指標(案)について

将来のあるべき姿の到達度を測定する指標として、「将来にむけて回復期への転換が必要な病床」を設定し、今後、地域医療構想の進捗状況をモニタリングする。

病床機能報告の最終集計から、病床数の必要量における「回復期機能を担う病床数の確保」は、他の病床機能から約8%程度同機能への転換が必要と推計

○病床機能報告(2017年度)と病床数の必要量(2025年)の比較

区分	年度	高度急性期	急性期			回復期	慢性期	休棟等	合計	【備考】 未報告等	
			(重症)急性期	急性期(不明)	地域急性期						
病床機能報告(病床数)	2017	682	3,401	2,245	17	1,139	657	1,124	14	5,878	2
				2,262		1,796					
病床機能報告(割合)	2017	11.6%	38.5%	0.3%	19.4%	11.2%	19.1%	0.2%	100.0%		
		↓2.4%		↓4.4%		30.6%		↓1.2%			
病床数の必要量(割合)	2025	9.2%	34.1%			38.8%	17.9%		100.0%		
【参考】病床数の必要量(2017年度報告病床数に対する病床数)	2025	543	2,003			2,279	1,053			5,878	
【参考】病床数の必要量(2013年の需要をベースとした病床数)	2025	657	2,424			2,759	1,275			7,115	

病床機能報告(地域急性期+回復期)
と病床数の必要量(回復期)の
割合の差 8.2%



【参考】 将来に向けて回復期への転換が必要な病床
5,878 (2017年度報告病床数総計) × 8.2%
= 約 480 床

【参考】病床の介護施設への転換が「病床数の必要量」に及ぼす影響

○2017 年度病床機能報告における介護療養病床（210 床）が介護医療院等へ転換した場合の病床機能報告（2017 年度）と病床数の必要量（2025 年）の割合の比較は下記のとおり。

区分	年度	高度急性期	急性期			回復期	慢性期	休棟等	合計	【備考】未報告等	
			(重症)急性期	急性期(不明)	地域急性期						
病床機能報告(病床数)	2017	682	3,401	2,245	17	1,139	657	914	14	5,668	2
				2,262		1,796					
病床機能報告(割合)	2017	12.0%	39.9%	0.3%	20.1%	11.6%	16.1%	0.2%	100.0%		
病床数の必要量(割合)	2025	9.2%	34.1%			38.8%	17.9%		100.0%		
【参考】病床数の必要量(2017年度報告病床数に対する病床数)	2025	523	1,931			2,198	1,016		5,668		

【参考】
病床機能報告(地域急性期+回復期)と病床数の必要量(回復期)の割合の差
7.1%

【参考】病床機能報告（2017 年度暫定集計）と病床数の必要量の比較

●病床機能報告と病床数の必要量の比較

区分	年度	高度急性期	急性期	(重症)急性期	急性期(不明)	地域急性期	回復期	慢性期	休棟等	未報告等	合計
病床数の必要量	2013	562	1,857				1,971	1,155			5,545
病床機能報告	2014	163	3,527				427	1,375	0	487	5,979
病床機能報告	2015	490	3,387				508	1,257	32	224	5,898
病床機能報告	2016	460	3,453				624	1,051	14	276	5,878
病床機能報告	2017	682		2,245	17	1,124	638	1,064	14	96	5,880
病床数の必要量	2025	657	2,424				2,759	1,275			7,115

合計 3,386

区分	年度	高度急性期	急性期	(重症)急性期	急性期(不明)	地域急性期	回復期	慢性期	休棟等	未報告等
病床機能報告	2017	11.8%		38.8%	0.3%	19.4%	11.0%	18.4%	0.2%	—
病床数の必要量	2025	9.2%	34.1%				38.8%	17.9%		

サブアキュート・ポストアキュート・リハビリ機能の現状と将来の予測

①病床機能報告

地域急性期+回復期	30.5%
-----------	-------

②病床数の必要量（2025 年）

回復期	38.8%
-----	-------

割合の差
8.3%